

C-1

ほね あい 骨まで愛して♪

1. ねらい

地球 上 には数多くの種類の生物が住んでいます。それらは皆、ライバルに勝ち、生き残る、ために進化の中で様々な体のつくりを獲得してきました。

人間は食べるためだけでなく、いろいろな理由で他の生物を殺しています。これは自然の中ではかなり特別なことです。

人間がよりよい暮らしをするために仕方なく殺してしまった動物の体も、よく観察するとそのつくりの巧みに驚かされることがたくさんあります。

いろいろな動物の頭骨を観察して生命の神秘に触れ、動物と人間が共存できるような世界を作ることができないか考えてみませんか？

2. 頭骨模本作製の手順

標本にする動物の頭部をストッキングのような目の細かい網に入れ、水で煮ます。

網に入れるのは細かい骨や歯をなくさないためです。大型の動物の場合は必要ないでしょう。

煮る時間は動物によって様々ですが、後の作業を楽にするためには半日程度は煮込んだ方がよいです。

十分に煮込み、骨と腱が離れるようになったら、骨の周りから筋肉を外します。骨に残った筋肉は使い古した歯ブラシでこすると落ちます。また、頭蓋内の脳は細い棒で掻き出すようにします。

ほとんど骨だけになったら、もう一度水煮したり、漂白剤につけるなどしてきれいになります。

途中で外れた歯や骨を元通りに組み立てて標本の完成です。

注意すること

標本にする動物を煮込む場合、換気に十分注意しましょう。また、火の扱いには十分注意しましょう。

3. 観察

哺乳類の場合、その食物でアゴや歯の形が大きく交わります。

肉食 動物は歯が鋭く、肉を噛み切るのに適しています。また、ハサミの支点がぐらついているとうまく紙が切れないように、アゴの関節にぐらつきがあるとうまく肉を噛み切ることができません。ぴったりとしている様子を観察してみましょう。

草食 動物は草をすりつぶすために臼歯が平らになっています。また、アゴの関節にもゆとりがあり、アゴを前後左右に動かすことができる構造になっています。

肉も植物も食べる雑食 動物の場合、両方の特徴を兼ね備えている場合があります。

眼のついている場所にも違いが見られます。両方の眼の視野が重なった部分が「距離」をつかむことができる範囲です。

逃げる獲物を捕らえる肉食 動物の場合、眼の前に並ぶようについて距離がわかる範囲を広くしています。

草食 動物の場合は眼が横について広い範囲を見渡し、敵が近づいてくるのを早く発見できるようにしています。



キツネ (肉食) の頭骨↑

シカ (草食) の頭骨→



4. 考えて欲しいこと

動物を標本にすることを「かわいそう」と考える人もいます。

しかし、人間は他の生物を食べないと生きていけません。命をいただいて生きていくのです。そうした動物の捨てられてしまう部分から生命のすばらしさを感じ取って欲しいのです。無駄に命を奪うのではなく、動物が住む環境をきれいにしたり、時には他の動物に恩返しをしたりしてみたいはかがでしょうか？

岡谷市立岡谷北部中学校 小松 猛

茅野市立長峰中学校 小松 由依